

井手たくの問い

(道路交通情勢調査※)というものを県でまとめている。それによると・・・)

平成2年、6年、11年までは、東名高速道路というのは交通量が右肩上がりが増えていました。

平成11年から17年にわたっては、すべてのポジションにおいて交通量が減っているというような状況があるんですね。この辺の状況というのは、把握をされていますか。

県土整備部参事(国土調整担当)の答え

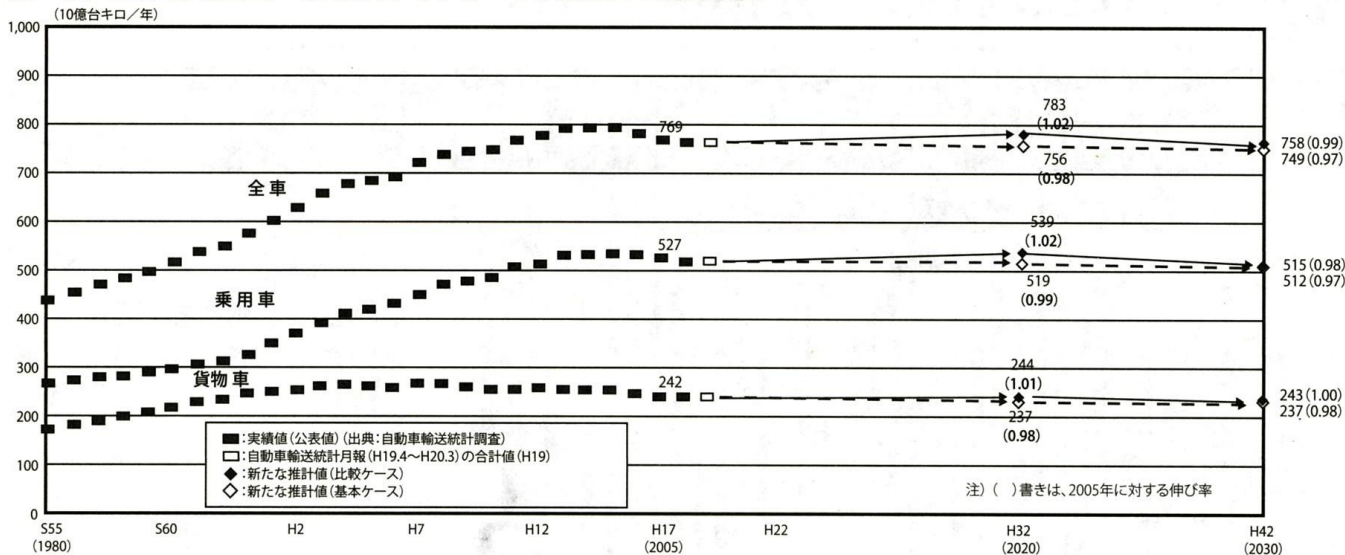
具体的には把握はいたしておりません。

驚くべき
無責任な
回答!



(※)H17年度「道路交通情勢調査」より
▲地図中の数字は1日の交通台数

(参考) 全国交通量(走行台キロ)の実績値と推計値



H17年度「全国道路交通センサス」より

平成 20 年 11 月 19 日

神奈川県土整備部長
齊藤 猛 夫 様

神奈川県道路公社
理事長 一杉 雄 一

(仮称) 綾瀬インターチェンジ建設事業計画に対する意見等について

(3) 県・市町による出資金方式、県による貸付制度など上記の手法がとれない場合は、現時点の建設事業費の試算では建設事業費に占める用地補償費の割合が約 50% になることから、この用地補償費を県負担とする方法も有効と考えます。

この場合、用地取得については県において、一般道路事業及び一般有料道路事業の対象用地を一括して先行取得されるよう検討をお願いいたします。

その後、
100億円の県公社負担は無理だという内容の意見書が県公社から出された。



A answer 県道路公社の極度の経営難にあわせて、
県の主体性のなさは明らか。